

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県宮崎市田野町あげぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kanitrue&livevoCd=4571500471-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑全体での行事(花見、夕涼み会、紅葉狩り)を含め、月1回の故郷訪問(ドライブ)や外出支援を行っている。月1回の地域のボランティア(紙芝居)や行事開催時の踊り、歌などのボランティアにも多くの方に来ていただき、地域に馴染めるよう努力している。
利用者同士のコミュニケーション、体力維持を図る為にレクリエーションやリハビリ体操を取り入れている。また、個々の残存能力を活かせるように、おかずの盛り付け、野菜の下ごしらえ、トレー拭き、洗濯物干し、畳み等の生活リハの充実を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを温かく見守ると同時に、内部事情にも詳しい温厚な運営者と生き生きとした2人の管理者、そして穏やかに利用者の子供の役を果たしたりして利用者本位に接している職員がいるホームである。接遇の仕方は、焦らず急がずに利用者のペースに合わせている。各棟のドアから廊下が続キリビングに入るような構造になっている。そのため厨房からは、廊下およびドアまでが見えないために、廊下とリビングの隅上部に見上げないと気づかない小さめのカーブミラーが取り付けられている。個別の介護等でリビングに職員がいない時、確認のために見守りの補助道具として利用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に添った理念づくりに努め、全職員が理念に基づいた支援ができるように取り組んでいる。	「地域密着型サービスの適切な普及を図る」という理念があるが、地域密着型とはそもそも何かという理解が、管理者と職員に十分になされていない状況がある。	地域密着型サービスの意義の理解および共有を行い、ホームの理念も抽象的な文言ではなく、現在の状況に合わせた分かりやすい理念にしてほしい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年1回の「夕涼み会」では、地域住民への参加を呼び掛け、常日頃から見学者の受け入れも積極的に行っている。・ボランティアの方々による月1回の「紙芝居」や誕生会には、主役の利用者にメイクやドレスを着用してもらい記念写真を撮って喜ばれている。	自治会が無いことや新興住宅地であるために難しい面があるが、ホーム内の前庭での夕涼み会は近所の人々の参加もあり、つきあいの一助となっている。運営者の妻が民生委員であり、地域の情報を生かすように心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が「いきいきサロン」に参加する等で、事業所の内容や認知症への理解を深めてもらえるよう日々努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議は2カ月に1回実施。 ・内容の記録はしっかり取って残し、月一回の合同カンファレンスで全職員に報告し、意見が反映できるように努めている。 ・外部評価も発信している。	会議が定期的に行われているが、最近、民生委員が加わったものの、ホーム内の身内だけの委員の会議となっている。	外部からの意見や情報を得ながら、その意見をサービスの向上へと生かす重要な会議であるために、多方面からの有識者を加えることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営者は機会を作り、本庁や総合支所に向いて連携を取っている。 ・管理者は、日頃業務に従事している為、時間的に困難である。	運営者は、ホーム内の事情に通じ、管理者とも意思の疎通があり、市の担当課や支所にも出かけて関係を維持している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員は理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。	以前から考慮の対象になっていた2つの棟へのドアの施錠であるが、B棟は以前から開錠であり、A棟も午後、見守りが難しい時間帯だけの施錠となっており、それ以外は開放している。玄関、門扉は開錠されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・常日頃から話し合いを持ち、虐待に繋がる事がないよう注意を払い、防止に努めている。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・機会ある毎の話し合い、入居時には必ずご家族に対して説明や情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、十分な説明を行い理解していただいている。 ・不安、疑問点を尋ね、それに対しては理解していただくよう努め、納得していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・「家族の会」発足に努力はしているが、ご家族において各々諸事情がある為、設立迄に至っていない。		利用者や家族からの要望や提案があり、運営に活かされている例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の合同カンファレンス等を利用し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。		運営者も参加する合同カンファレンスでの意見、各棟での会議を通して意見を運営に生かすようにしている。休憩の時間および時間帯の変更などがある。職員は、直接管理者に提案を述べることもあり、即決したり、皆で話し合っ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の合同カンファレンスにも参加し、研修報告も聞いている。社会保険労務士にも介入していただき、勤務時間、賃金等も管理していただいている。また、有休なども必要な時は取れるように、人員は多めに配置している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員を増やす事で、研修等に交代で参加していただいたり、興味を持った勉強会には積極的に参加していただいている。また、カンファレンス時には研修報告の場を設け、全職員に介護の知識の向上を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや協力医療機関の計らいで、他事業者総合訪問や意見交換等の場を設けてもらっている。また、管理者や職員には、グループホーム連絡協議会にも参加していただき、質の向上をめざしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の面談等で得た、不安な事や要望を参考にしたサービス導入を行い、入居後しばらくは特に毎日の言動に気を配り、ご本人の安心を確保するための関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時や入居後の面会及び定期的な担当者会議では、不安や要望を聞き出せるように声掛けを行い、安心していただけるような対応に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネージャーが窓口となり、家族の意見や要望を聞き、ご本人の担当職員や管理者と情報を共有し、必要としている支援を見極め、対応できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員と利用者と言った壁を作らず時には娘になったり、同郷同士になったり、姉妹になったり…といった関係作りに努め、喜怒哀楽を共にする事で、暮らしを共にするもの同士の関係が築けるよう努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族が面会に来られた際には必ず、ご本人の日々の様子を伝えまた、体調の変化があった時もご家族に病院受診の了解を得るなどして、絆を維持できるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの関係が途切れないように、月1回は自宅近所へドライブに行ったりして、機会ある毎にご家族へ声掛けをして外出等の支援を行っているが、年々難しくなっている。	親族、知人の訪問がある。利用者が長年通っていた寺社、花の名所や紅葉狩りに行く支援もなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士の関係を見極め、関わりやすい環境作りに努めている。また、職員が間に入って各々の共通の話題を引き出し、関わりあえるような場を作るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・継続的な関係を希望される方や家族に対しては、できる限り支援するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や担当者会議の中で、家族の思いや意向を聞き取り、サービス計画表に明記している。困難時は、担当者とモニタリングを行い、日々の生活状況の中から本人本位のプランを作成している。		新聞から必要な箇所を読むなど回想してもらって、脳の刺激を行う支援をしている。焼酎の好きな利用者には応じており、買い物が必要な利用者の要望にも応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、できる限り自宅訪問を行い、周辺環境、友人関係、趣味等の情報を家族から聞き取っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りやカルテの記録内容、バイタルチェックやコミュニケーションを図る中で、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度、家族・担当者・管理者及び看護師・ケアマネでサービス担当者会議を行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、毎月担当者とモニタリングを行い、状態把握に努めている。		月1回、利用者の担当者と計画作成担当者によるモニタリング、3か月での見直しと必要なら計画書の作成、6か月の見直しと計画書の作成が行われている。この期間にかかわらず随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた援助の記録を行い、体調変化(脚力の低下)等、情報を共有し、頻度の変更やプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	焼酎の好きな方には2回/w位の晩酌提供。外食やショッピングの好きな方には1回/月外食やショッピングに出かけている。また、自家菜園(当苑)で収穫した野菜を毎日の料理で提供している(大根、なす、芋)。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月1回の紙芝居のボランティア、年1回の保育園児の慰問。 ・個人では日用品の買い出しを職員と共に近所の店に行ったり、誕生会にはメイクボランティアの方々に来てもらい、化粧等を楽しまれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族の希望を重視し、納得が得られたそれぞれのかかりつけ医での受診ができています。 ・かかりつけ医と事業所との関係は良く、気軽に相談できています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日、利用者の情報を申し送り等で共有し、異常や変化を見逃さないようにし、発見した時には看護職に伝えて相談している。 ・定期受診の際には必ず日々のちょっとした変化を伝え相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関やかかりつけ医との連絡は密に行い、また、面会にも行って本人やそのご家族との関係を維持できるよう努力している。 ・常日頃から協力医療機関との関係は良い状態を保てるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に急変や終末期について苑の方針や現時点での体制を説明し、理解を得ている。 ・入所案内にも記載している。		重要事項に3つ箇条書きで方針が記されており、それを基に口頭で、入居時に具体的な内容は説明している。状態に応じた話し合いも行っている。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的には行っていないが基本マニュアルは作成している。 ・研修や講習会には、全職員が参加できるように取り組み、月1回の合同カンファレンスで報告し勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災や災害時訓練を年2回、消防署職員の指導の下で行っている。 ・消防署との直通連絡ができるようになっており、避難経路の地図も作製。職員が常に確認できるようにしている。 ・地域の協力体制もできている。			
					近所の人々に避難訓練の見学を招待するなど、漸進的に地域との協力体制が築けるようになることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりにあった言葉かけに努め、誇りやプライバシーを損ねないような対応をするように心がけている。		利用者の使う言葉を使って会話をしたり、長年培ってきた人格に即した対応に心掛けています。目覚めたばかりの利用者が食卓につくときも、優しく声かけをしながら、覚醒させてから食事を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・できる限り寄り添うように努め、本人の思いや希望を引き出せるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・各々のプランに添えるよう支援しているが、午前中は職員や利用者同士の交流を図る為、ホールに集まってレクリエーションに参加していただいている。・午後には各々のペースで自由に過ごしていただきTVを観たり、利用者同士、居室で談笑されている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行事や外出の際には本人の希望を聞きながら、日頃とは違ったおしゃれができるように支援している。・日常でも身だしなみには気を配り、その人らしく過ごせる様支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・可能な限り一人ひとりの好みを取り入れられるようなメニューを考え、行事の時にはその催しに合ったメニューで提供している。・下ごしらえや食後の片付けなど、各々の力を活かした方法で手伝って頂いている。・食事は共に摂っている。		利用者、職員も、各棟で料理したメニューを食べている。ご飯を先に食べて満腹感ゆえにおかずに出せない利用者には、おかずを先に出してタイミング良くご飯を提供している。トレイやテーブルふきなど、利用者の力を発揮してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・偏った献立にならないように、栄養のバランスに配慮したメニュー作りに努めている。・食事摂取量は毎回記録しており、水分量に関しても必要と思われる方はチェックし、十分に確保できるように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人ひとりに必要に応じて、口腔ケアの声掛けや介助を行って清潔保持に努めている。・義歯の消毒も夜間で定期的に行っている(月2回)。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導する事で排泄意識を持ち、自立に向けた支援を行っている。 ・夜間はベッド上で尿取りパッド交換されている方も、日中はトイレでの排泄支援を行っている。		トイレ誘導を基本として行っている。おむつからリハビリパンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便チェックは毎日行っており、便秘がちな利用者には水分補給を日頃より多めに行ったり、腹部マッサージ等の対応をしている。 ・かかりつけ医への緩下剤の処方をお願いなどでも対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・業務上、各々の希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、現在の利用者の方に希望を訴えられる方はおられない為、一日おきに午後入浴で行っている。		夜に入浴を希望する利用者には、対応している。拒否する利用者には清しきにしたり、次の日に入浴してもらったりと、利用者本位の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・午前中は利用者の方々の状態観察の為にホールに集まって頂き、バイタル測定や機能訓練の為にレクリエーション又は行事等に参加していただいている。 ・午後は自室で入床されたり、ホールでTVを観られたり、自由に過ごして頂けるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定期薬・臨時処方・変更といった情報を常に職員間で共有し、症状の変化の確認等も申し送りを怠らないようにしている。 ・各々の利用者に応じた服薬支援を行い、その都度、日付、名前の復唱等で誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その人に合った役割を考え、プランの中に取り入れ、日常生活に楽しみや生き甲斐を感じて頂けるよう支援している。 ・雑誌の提供、週2回の晩酌、散歩、ドライブ等。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・天気の良い日は外気浴として近隣の散歩に出かけている。ご家族が協力的に外出して下さる方もおられ、本人も喜ばれている。 ・定期的なドライブや買い物等の支援も行っている。		天気の良い日には、前庭や周囲の道路での散歩が行われている。ドライブによる自宅訪問で、家族と触れ合う支援を行っている。買い物好きな利用者や、散歩がてらの外出もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常的に各々が所持していただくのは難しい。 ・紅葉狩りやドライブでは買い物をして頂くよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があればいつでも対応できるようにしているが、自ら希望される方は現在おられない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居心地よく過ごして頂けるよう、ホールでの席、ソファの配置を考え、季節に応じた飾り付けを工夫し、温かい雰囲気づくりに努めている。また、時には民謡や昔の唄のCDを流し、共に口ずさみながら穏やかに過ごして頂けるよう工夫している。	A棟は車いすの利用者が多いので、2つのテーブルを離し、B棟はその必要がないのでテーブルをつなげている。ホーム内は清潔に保たれ、レクリエーションに使う道具類も一箇所にまとめている。季節の花も飾られ、居心地の良さに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者の方同士で会話できるような席の配置やソファを置いたり、TVが好きな方はTV前に席を移動したり、雑誌、新聞の提供を行う等、自由に過ごして頂くような工夫、声掛けを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族の写真を飾られたり、馴染みの家具を持ち込まれたり、また、逆に好みでシンプルにされたりと、個々にあった居室作りに努めている。	息子さん手作りの棚に飾り物が置かれている居室、仏壇持参の居室と、それぞれの雰囲気の居室作りがなされており、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・要所要所に手すりの設置、夜間のセンサー式照明、床はバリアフリーとなっている。 ・トイレ、各々の居室にはわかりやすいように目印や張り紙を表示している。			